

今学期は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休校があり、学校再開となってからもマスクを着用しての学習や密を避けながらの活動（対策）など、例年とは異なる学校スタイルとなっていました。そんな中でも、資質・能力ベースの授業づくりを目指して、研究授業や見て見て授業を行っていただき、授業や事後研を通して単元づくりや教材準備・具体的な手立てなどを学び合うことができました。研究主題に向かう日々の授業実践によって、子どもたちの「国語好き!」「友達と勉強するの楽しい!」が増えているとうれしいですね! 今回は、見て見て授業④（4年1組）、⑤（1年2組）と研究授業（1年1組）のその後の様子をお伝えします。

見て見て授業④

単元名 「お世話になった人にお礼の気持ちを伝えたい」
教材名 「お願いやお礼の手紙を書こう」 **4年1組** 宮川 教諭

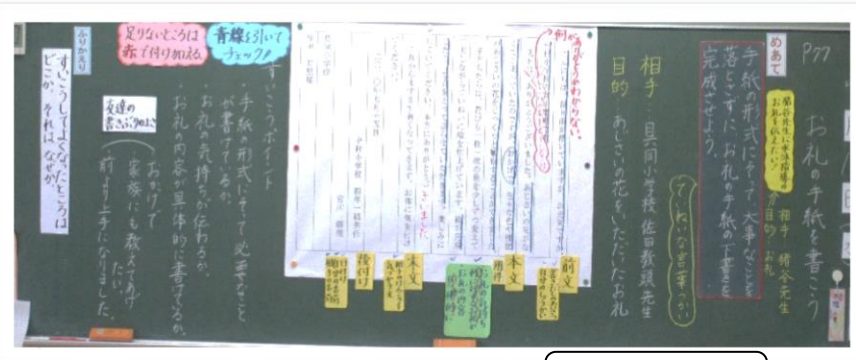
めあて:手紙の形式に沿って、大事なことを落とさずにお礼の手紙の下書きを完成させよう。

『水泳の講師・猪谷先生（相手）に、教えていただいたお礼（目的）の手紙を書く』という単元を設定していました。単元のゴールに向けて、教材文で手紙の書き方を学習し、実際に手紙を書き、本時は推敲です。まず、教師のモデル文（バッド部分に気付かせる）を用いて、手紙の形式（前文・本文・末文・後付けに書く内容）に沿って、書いているか全体で確認しました。そして、自分の手紙をチェックしながら加筆し、グループで読み合い、全体で共有するという学習内容でした。目的・相手意識を大切にし、『感謝の気持ち』が表れる手紙を目指していました。



事後研より

- 体育（水泳）のことや前時までの確認があり、本時のめあてまでの文脈がある。付けたい力【B 推敲】が明確で、全員が学習課題に向かっている。学習活動において、常にめあてを意識させ、推敲の手がかりとなるモデル文を活用して、子どもたちは考え発言し意欲的な姿が見られた。
- 単元を通して授業準備や板書など、手立てが細かくできている。
- ▼モデル文は掲示だけでなく、手元で見れるとより分かりやすい。
- ▼友達の手紙を読み合う際は、表現のよさに気付かせたい。「どんな言葉で書いてあった?」と切り返し、具体的な書き表し方を取り上げ、広げていきたい。



本時の板書

学習の足跡(移動黒板)



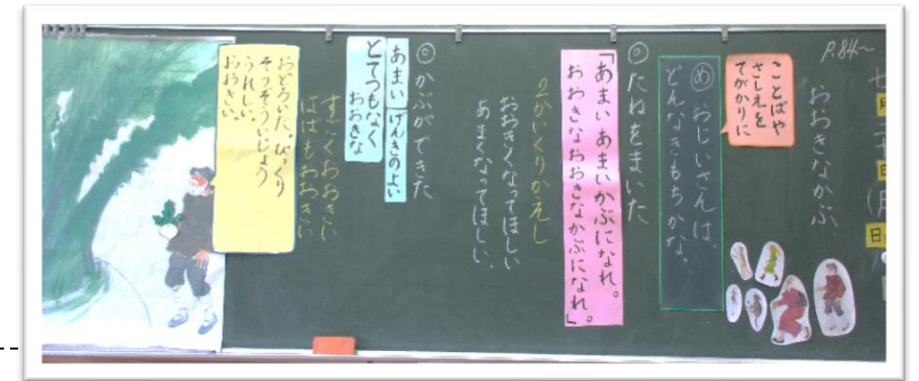
見て見て授業⑤

単元名 「おはなしをたのしくよもう」
教材名 「おおきなかぶ」 **1年2組** 久松 教諭

めあて:おじいさんはどんなきもちかな。

本時の学習場面を確かめるため、音読から始まった国語の時間。物語の登場人物を確認したり、おじいさんが種をまいている様子を動作化したりして楽しく読み進めていました。

気持ちを想像できるように、繰り返しの言葉を意識させたり、挿し絵を拡大して題名の「おおきなかぶ」をイメージさせたりしながら、おはなしの楽しさを味わってほしいという先生の思いが伝わってくる授業でした。



事後研より

- 視覚的に学びが分かる整えられた板書が良い。
- 大きなかぶを表す挿し絵や小さなサイズのかぶの準備など、子どもたちがイメージしやすい。
- ▼しっかり聞く態度を身に付けさせる。
- 子どもたちに要求し、できたら褒める、評価することで、子どもたちは（このようにするんだな）と自覚し、学習に向かう姿勢や態度を身に付けていく。
- ▼「なぜそう言ったと思う?」と問い返し、考えた理由を前の場面や気持ちに戻って、「だって〜」と話せるようにしていきたい。



研究授業後の学習

1年1組
「してほしいな きもちもとどけよう」

1年1組の教室では、保育園や幼稚園の先生に知ってほしいことを絵日記で表すため、したこととと思ったことを書いた下書きをもう一度見直しなが、きれいな文字で文章を仕上げていました。促音や拗音にも気を付けながら、一生懸命書いている姿が見られました。

先生たちからの手紙



下書きを見ながら、ゆっくり丁寧に仕上げで書いています。

